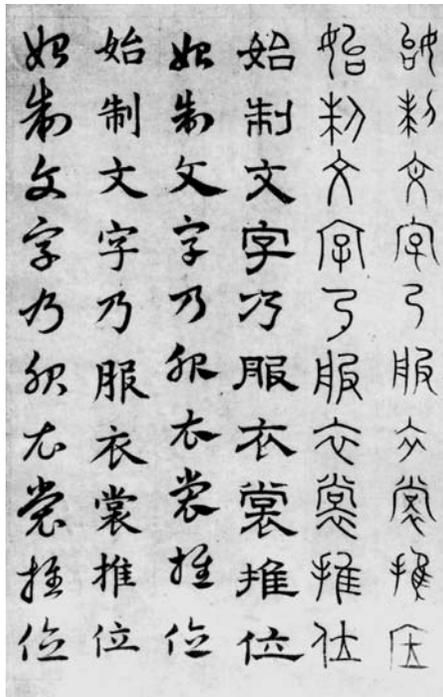


書体鑑賞・「章草体」③ 趙孟頫書『急就章』

図版②『六体千字文部分』

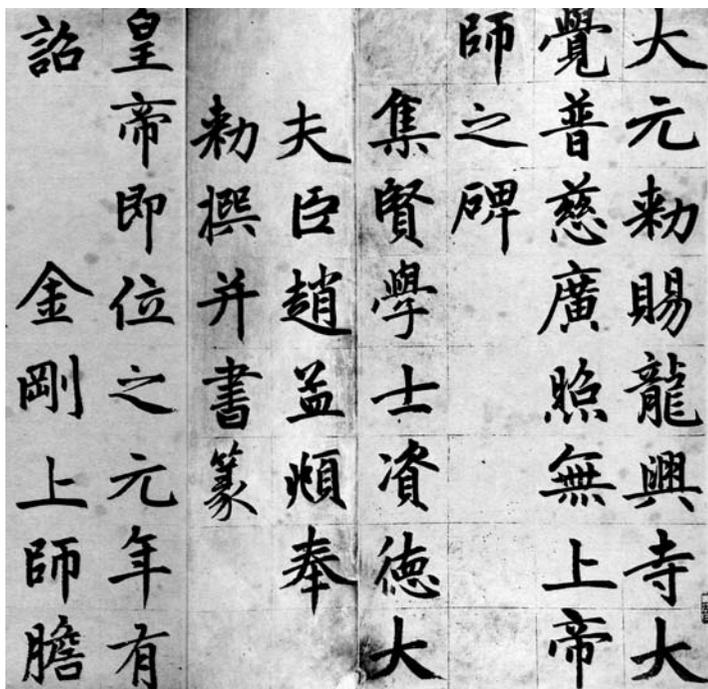


図版③ 卷末の款記



王羲之以後、隋唐宋にかけて章草体の作品は知られていない。宋末から元にかけて偉大な書道家・趙孟頫(1254〜1322)字は子昂、松雪道人、水精宮道人などと号し、元朝に仕えた官僚であり、優れた書画を残した。が現れた。伝統的な王羲之を中心とする古典を学び、趙孟頫の独自の「趙体」と称される書法を打ち立てた。古典に通じたことを如実に示す作品として『六体千字文』(図②)がある。古文、小篆、隸書、章草、楷書、草書を見事にかき分けている。その他に楷書の碑文や、小

図版④『胆巴碑』



楷の作品が多く伝来している。章草体にも優れ、『急就章』の臨書作品が残されている。右頁に示したのは、乾隆皇帝が編纂せしめた『三希堂法帖』に収録され、当時まで真蹟が伝来したものである。巻末の款記(図③)の大徳7年(1303)から趙孟頫の壮年の書であることが知られる。第一回で取り上げた史游や皇象の章草体を巧みに自らの書としている。「趙体」の代表作とも評される『胆巴碑』(図④)の楷書体も見事な作であり、多くの人々に学ばれている。

〈釈文〉

急就奇觚與眾異羅列諸物名
 姓氏分別部居不雜廁用日約少誠
 快意勉力務之必有喜請道其章
 宋延年鄭子方衛益壽史步昌周
 千秋趙播卿爰展世高辟兵第
 二部萬歲秦妙房郝利親馮漢

伊藤滋 メールアドレス

mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

書道芸術院 平成の群像 (2015)



橋本玉扇

感激の日々

作品講評の中に「あまりにも素晴らしい作品、感激でもとも眠れない……」という解説にであった。
ふと、いろいろな感激・感動が思い出されました。

恩師種谷扇舟先生にめぐり逢えたのは、転校先の高校2年4月、書道の授業、書道クラブに入部した時。これから奇跡としか言いようのない幸運が始まりました。奥深く幅広い書の道を、門下の方々は、古典の臨書で骨格・造形・線質の基本や優美さリズム感等を学び、做書し、創作へと展開して自己表現されていました。そして、博物館や展覧会他で鑑賞力を養い、書の歴史・背景を知る書論読破と、意欲的に学んでいる様子に驚愕ノ理解しがたい私に根気よく指導下さる先生、かみくだいてサポートして下さる先輩・友人。感謝です。環境が変わっても、時が移り過ぎても、変らぬ優しさでご指導・ご尽力を戴いての書学習は感謝の言葉しか思いつきません。

左側に臨書作品。落款に「昭和四十五年一月雁塔聖教序の魅力にとりつかれ原拓を臨書したがまたまた惨敗偉大な彼と惨めな我、種谷扇舟……」感動・感激で言葉にならない時でした。この見事としか言いようがない日本一・世界一の臨書にさえ厳しい評。謙虚さに驚愕!!
書けなくて当然、悩んで当り前と日頃の学習不足・浅学な自分を反省した時でもありました。
年を重ね、体力に陰りが出て来た昨今は、筆を持てる幸福に感謝し、導き励まし育てて下さった皆様の御恩を心に刻んで、素朴な書をめざし、墨色にこだわり、変りゆく紙を知り、平面に書いて立体的に見える技術を磨いていきたいと思えます。課題は一杯ですが、夢を持って仲間と一緒に楽しみながら書が続けていたいと願います。



石井露月句

掲載作品は、高野山120年を記念献書奉納した作品。井波太子筆と長鋒羊毛筆の2本で作。
(井波太子筆は富山県井波の故廣瀬古州さんが、扇舟先生のアドバースのもと改良製作された筆である)

書のひろば

理事長 辻元大雲

第68回書道芸術院展盛會に終了

2月17日から21日まで東京都美術館にて開催された第68回書道芸術院展は800名近い入場者を集め、盛會の裡に終了した。

2月8日、表装済み作品の搬入、翌9日10日に審査会員候補・審査会員対象の特別賞選考が財団理事、監事による選考委員により行われ、春華賞、大賞始め諸賞が決定した。15日(日)には陳列作業が陳列部委員、動員お手伝い、川端商会(業者)により順調に行われ開會へと準備が完了した。

15日午後3時より恒例の記者会見が会場第1室にて行われ、理事監事による大作に、1月年頭に開催された都美企画展「公募展の今」に出品された書道芸術院代表作家3名(漢字部 川島舟錦、現代詩文書部 田村鄭雲、前衛書部 山口仙草)の超大作を中心に広々とした会場でご参加くださった報道関係者、評論家に強烈な印象を感じていただいたことと思う。

評論家の眼には五禾書房編集長の麻生泰久、出光美術館笠島忠幸両氏にご依頼し外部からの作品評価をいただきたい。両氏より各4〜5点お取り上げい

ただき、作品評を直筆にていただき名票にあわせ展示し、批評全文を印刷して参観者に配布した。

会期最終日21日、午前中会場第1室にて作品研究会を多数の参加者のもと、各部代表選考委員により行い充実した内容の濃い研究会であった。



作品研究会風景

午後1時より会場を帝國ホテルに移し、第66回全国学生書道展表彰式、第68回書道芸術院展表彰式と続き、5時半過ぎより孔雀の間にてご来賓(今回は報道関係、評論家のみ)にご参加いただき600名余り全員着席により盛大に催された。詳細は別途実行委員長報告をご覧ください。

第67回毎日書道展運営委員会開催、運営大綱決定

2月2・3日、如水会館にて第67回展運営委員会が開催され、当番審査員・

会員賞選考委員、各部委員など運営の大綱が決定した。主要役員は64号にて報告済。(以下院関係者)

・会員賞選考委員(理事・監事以外)
近代詩文書部 飯高和子
前衛書部 千葉蒼玄

・当番審査員
漢字I類 加瀬澄春 II類 佐藤菜扇
かなI類 大辻多希子 II類 平川峰子
近代詩文書部 大平邑峰 坂本素雪
田村鄭雲
大字書部 小浜大明 前田龍雲
刻字部 後藤大峰
前衛書部 板垣洞仙 太田蓮紅
田守光昭 塚越紅苑

・陳列副部長 かな部 田子白嶺
前衛書部 山口仙草
・搬入整理担当主任
漢字I類 三浦鄭街
・鑑別審査担当主任
近代詩文書部 尾形澄神

・入落担当主任
近代詩文書部 佐久間幸扇
・著作権担当主任 金木和子
・各部委員略

◎会期
・東京展
「国立新美術館」
通期陳列(審査会員・文科・会員賞)
前期展I期 7月8日〜13日(漢字・大字・篆刻・刻字、東京展会員・毎日賞以下入賞、各展会員・東京展会友、あ〜さ行)

前期展II期 7月15日〜20日(同、

各展会員・東京展会友た〜わ行)
後期展I期 7月22日〜27日(かな・近詩・前衛、東京展会員・毎日賞以下入賞、各展会員・東京展会友あ〜さ行)
後期展II期 7月29日〜8月2日(同、各展会員・東京展会友た〜わ行)

わ行)

「東京都美術館」
7月16日〜7月23日(理事・監事2
作目、東京展公募入選・U23入選)
・関西展 8月5日〜9日
京都市美他

・四国展 8月12日〜16日 愛媛県美
・北陸展 8月23日〜27日 富山県民
・東海展 8月25日〜30日 愛知県美
・中国展 8月25日〜30日 広島県美
・仙台展 9月18日〜23日 仙台
・北海道展 9月23日〜27日 札幌
・山形展 9月30日〜10月4日 山形
・九州展 12月1日〜6日 福岡市美

毎日芸術賞 船本芳雲氏受賞

昨年4月に開催された「泌みいる故郷」船本芳雲個展(横浜そごう美術館)が高く評価され、第56回毎日芸術賞が1月30日贈呈された。全て自作詩による壮大な近代詩文書作品で埋められた個展で、入場者は約1万人を数えたという。漢字かな交じり書、あるいは近代詩文書と名称は様々であるが、船本芳雲氏の快筆を大いに慶賀したい。ほかには俳人の鍵和田柚子氏、落語家の柳家小三治氏等計7名に授与された。

漢字 (六)

濱田尚川

日本を代表する美術は書であるべきだ

(右側)

最近の書展を見て、「書は線がいのち」のはずが、線が浅くて弱い、薄っぺらでガサガサ、会場が落ち着かない。うまいが線があまくて魅力も無い。書線の大切さを痛切に感じている。(院はどうかな?)

古典はどこか一角で眼を引きつけてくれる。変な字だと思ってもこんな良さがあったなあ、他に無かった味わいがあるんだと発見できる。臨書はその書を見た感動に生き生きと躍動している自分が書いている姿である。臨書は古典に書かされるのではなく、自分が書くという主体的な営みである。

「白雲無盡時」



(90×350) 県美術家協会展出品・考える村蔵 平成15年 濱田尚川書

臨書も、白い所を見て形をとるのも一つの行き方。線と共に構成的なことを大切にし、創作する時に参考になるような構成を。白の解決が大切である。畢竟、すばらしい古典から学びとり、古典には無い自分の書線が生まれてくることを念じ、性情豊かに品格のある美しい書を目ざしていきましよう。

「白雲無盡時」は、きれいな白雲に引かれて、雄々とした姿を気分も大きくゆったりと。豊かさ、白も生かしたい気持ちで…。

21世紀の書

—私の主張—

篆刻・刻字 (六)

後藤大峰

前々回、書道専門誌にとりあげていただいて一つの転機をむかえた事を、お話ししましたが、もっともっと自信というか確信を持ったのが第59回書道芸術院展での「峰雲賞」の受賞でした。まだまだ、その作品創りに不安があった頃でした。この年は非常に寒い年で長野の諏訪湖の「おみ渡り」がこれまでにない大きいものが発生した年、これを題材にし仕上げたものがこの作品「水の躍動」です。

金文の「水」を4文字、印面の中で踊らせました。身近にいる常に意見を求めていた書友、何時もは「何を狙っているのか判らない」でしたがこの時、初めて良い評をくれました。

篆刻作品は一般的には印面の中に成語2〜5〜6文字を組み立ててそれを創りますが、表現に幅を持たせるには文字の構成の固定概念を取り払わなければなりません。正対したまま文字を構成しては古来の作品と何の変わりもありません、それをどう動かすか? 文字数は? 余白は? 固定概念を取り払った



「水の躍動」 (12×12) 後藤大峰刻 (第59回書道芸術院展)

分表現方法が多岐にわたります。草稿の段階での予備構成が非常に重要で、それを経て本印稿を作ります。何はともあれ以前も書きましたが新しいものを創り上げる事の難しさは挑戦したものでないと分からないものがあります。

第46回 現代女流書 100 人展

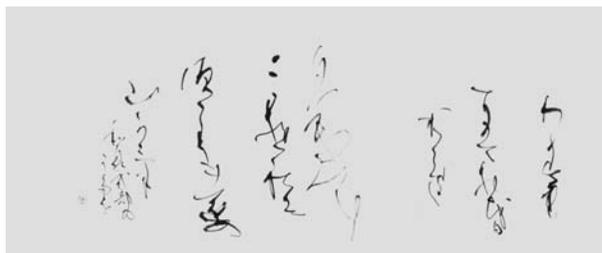
同時開催＝現代女流書新進作家展（第66回毎日書道展会員賞受賞作家）

会期＝平成27年 1月28日(水)～2月2日(月)

会場＝日本橋高島屋 8階ホール

主催＝毎日新聞社 後援＝(一財)毎日書道会

下
谷
洋
子



〈遠の山かげ〉

61×141cm

へ
振
へ



香
川
倫
子

90×89.5cm

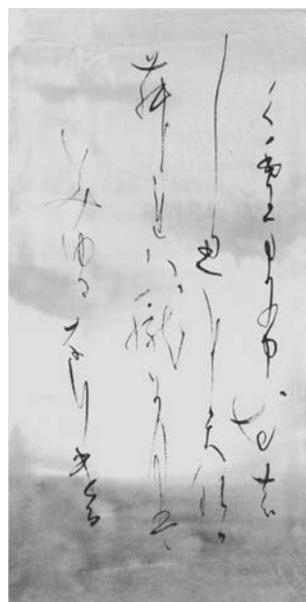
最
首
翠
風



〈人之生也直〉

95×126cm

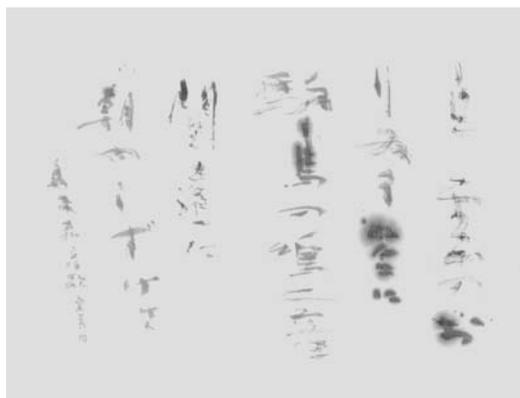
雲
に
ま
が
ふ



石
井
明
子

136×69.5cm

上
村
棠
芳



〈島木赤彦の歌〉

105×136cm

〈たまゆら〉

熊谷宗苑



120×120cm



金木和子

〈深代響の句〉

105×135.5cm

〈恵〉

飯田春香



135.5×105.5cm

〈仁清の壺〉

白石和楓



172.5×73cm

〈キセキ〉

工藤永翠



183×91cm

〈皎朗〉

石田和子



135×106.5cm

〈2015—今〉

真下京子



119.5×120cm

〈徹〉

小伏小扇



135.5×106cm

〈未来〉

福島李舟



151.5×73cm

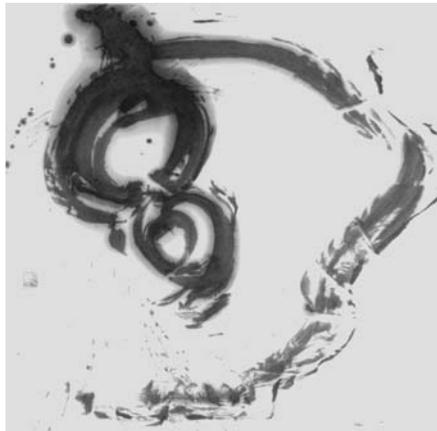
橋本玉扇



〈花谷和子の句〉 70.5×31.5/70.5×34.5cm(×2)

〈幻〉

稲垣小燕

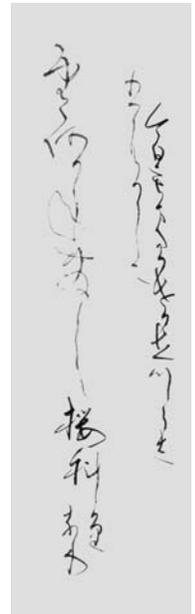


105×106cm

新進作家展

〈けふもまた〉

勝山初美



181×53cm

自書告身帖（顔真卿）③

〔解説〕 顔真卿は、独特の筆法により楷書を残した。この自書告身帖は、「麻姑仙壇記」とは異なり、筆が冴えて活動しているタイプの書。筆の弾力を効果的に用いており、生き生きと生きている、結体にも筆意にも非常に変化が多いのが特徴。「蚕頭」といわれる、起筆を蚕の頭のように書く法や、「燕尾」といわれる、右払いの収

漢字研究部臨書課題

Ⅱ（半紙普通判・縦使用）左記の法帖より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

Ⅱ（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）左記の掲載以外も可。

筆が燕の尾のように書く方法が随所に見られる。この帖の肉筆と伝えられるものが、日本に伝来しており台東区立書道博物館に収蔵されている。しかし時代を経て墨が薄く精彩の乏しいものとなっている。

（編集部）

※落款を必ず入れる

署名、もしくは〇〇臨

（押印のみも可）

流州孫制禮光我王
度惟是一有實貞萬
國力乃稽古則思其

流。叔孫制禮。光我王／度。惟是一有。實貞萬／國。力乃稽古。則思其

中務集 (伝西行) ③

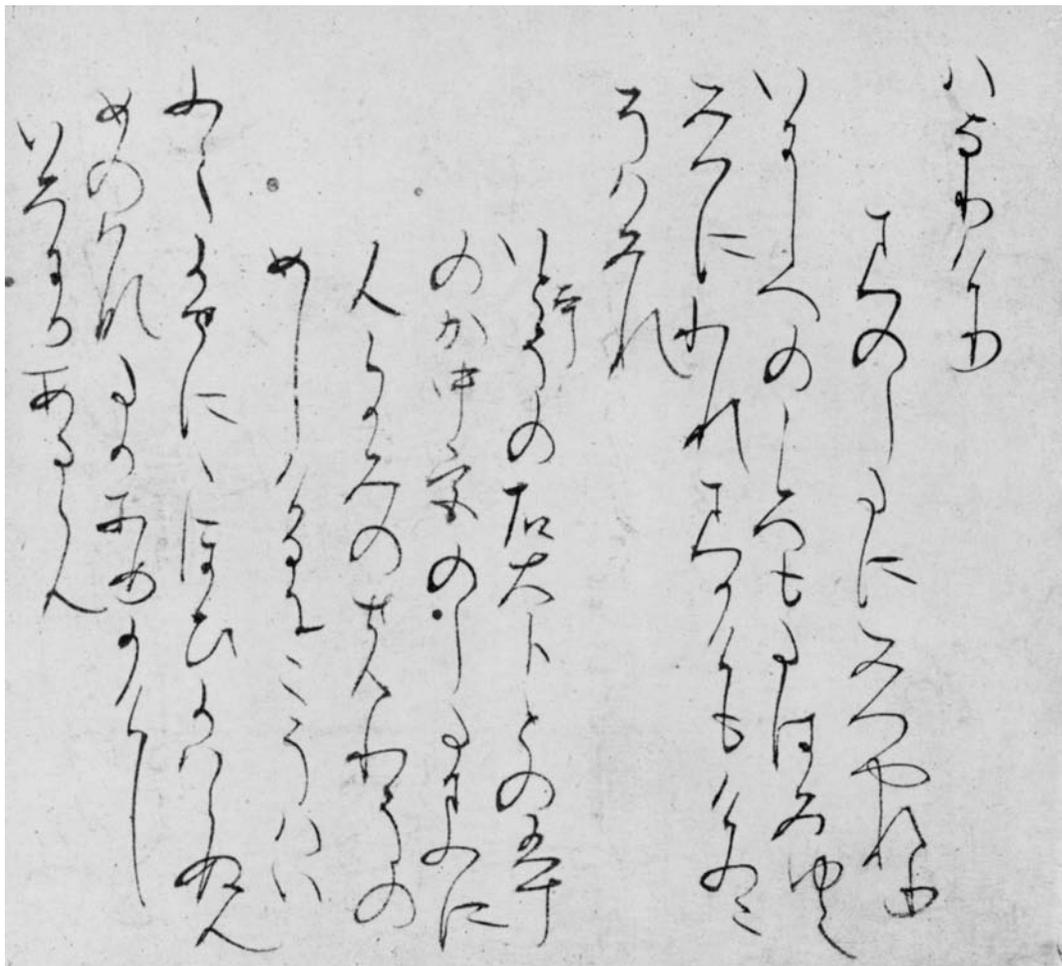
※落款を必ず入れる
署名、もしくは〇〇臨
(押印のみも可)

かな研究部
臨書課題

|| (半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
別紙を裁断して貼付も可。
半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上
を書く。(全臨も可)

特別研究部
臨書課題

|| (毎日展公募サイズ以内・縦横自由)
左記の掲載以外も可。



〔よみ〕
ばなりけり
まつのしたにみづやれり
いにしへのころもたはみゆく
みづにわれまつかけもけふこ
そはみれ
いとその右大臣どの五十
本
のが中宮のしたまふに
んらかみのせんわうの
めしけるにこうばい
ふくかぜにほひかはらぬん
めのはながそめかけし
いろにかあるらん

〔解説〕

4系統ある伝本の1系統の
最初のもので、歌数286首、大
和綴の冊子本。料紙は楮紙で、
2丁に叢と板子の下絵がある。
颯爽とした字形で、細いが力
強い筆線が伸びやかに進む。
直線的な連綿が特色である。
平安時代末期に書かれ、伝西
行筆の別の私家集に同筆と思
われる筆跡がある。近年この
集を含む伝西行筆の私家集は、
同時期の歌人・歌字者の藤原
俊成の周辺で書写された一連
の歌集と判明された。前田家
旧蔵。納め箱は加賀藩の御用
蒔絵師、五十嵐派による竹垣
に秋草の蒔絵が施されている。

(編集部)

漢字規定 初段以上 【四月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

小林琴水選書



如蓮華在水

よみ (如蓮華在水)

書体 自由

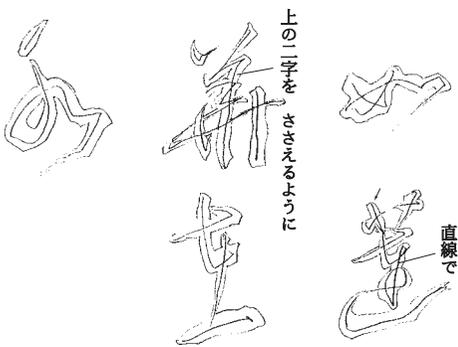
習い方解説 (六)

小林琴水

如蓮華在水 (法華經)
(蓮華の水に在るが如し)

蓮の花は泥水の中にありながらも、美しく見事な花を咲かせます。泥の汚さに染まることはありません。私達も蓮華のように世間の汚れに染まらず、心清らかにして正しい道を行っていききたいものです。

最終回、5字、軽やかなリズムで3文字気持を続けて書きました。最後の2字は、気持をおちつけてゆっくりと筆を置きました。



漢字規定 秀級以下 【四月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

種谷萬城選書



立身行道

よみ (立身行道)

書体 楷書

習い方解説 (六)

種谷萬城

立身行道

(立身行道)

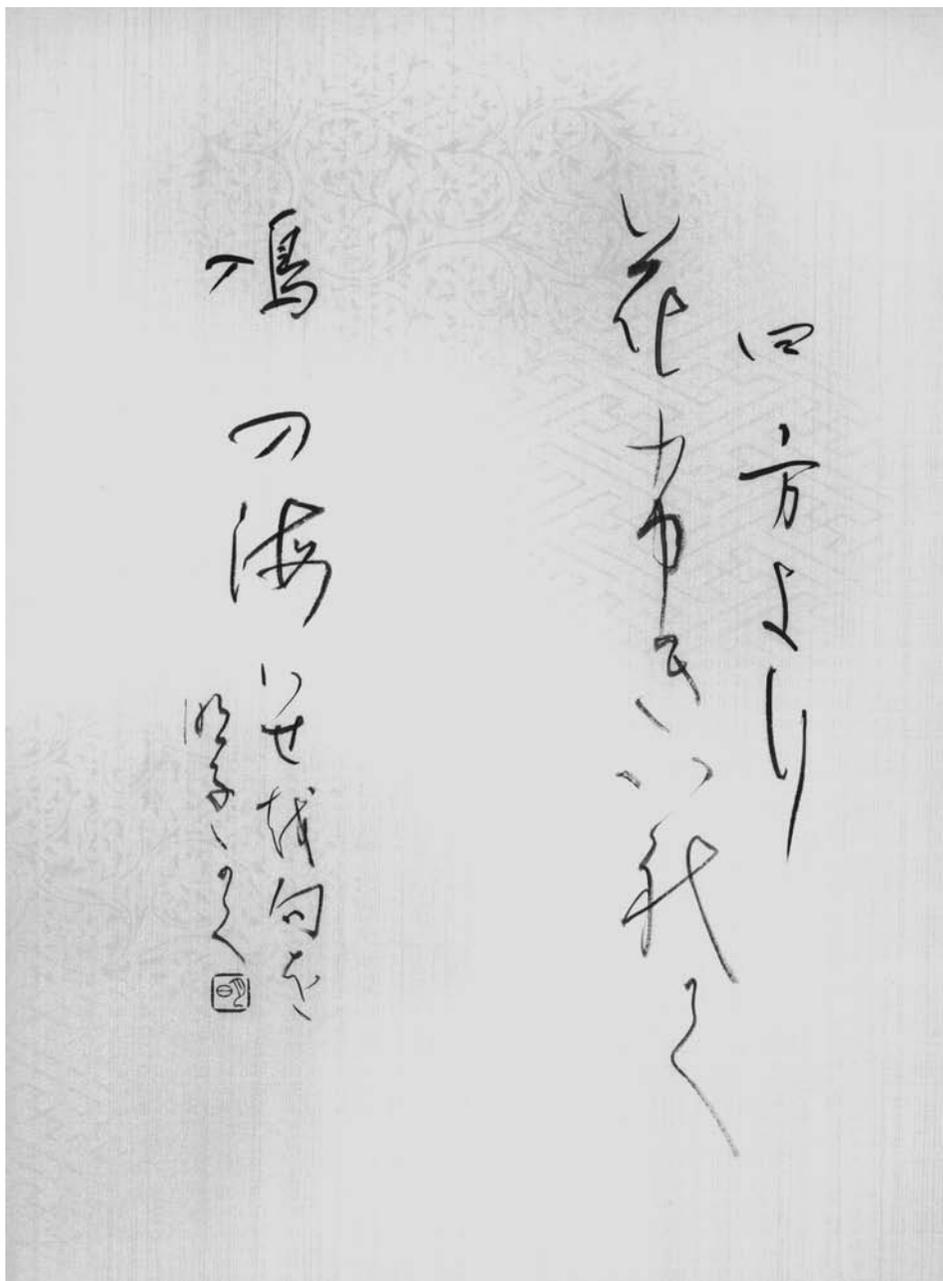
(孝経)

わが身を立派に完成させ、人としての道を踏み行なう、の意味。『孝経』に「立身行道、揚名於後世、以顯父母（身を立て、道を行い、名を後世に揚げて、以て父母に顕す）」とあります。

今月は、唐の四大家の一人・顔真卿の書風で做書しました。顔真卿の楷書は、肉太の線で重厚です。「蚕頭燕尾」（起筆が蚕の頭のように円く、右払いの収筆が燕の尾の形のようなものである）の特徴を持つ筆法は、筆の弾力を利かせ、独特の表情を醸し出しています。又、字形は向かい合う縦画が外側に膨らみあう「向勢」の構えをしています。「顔氏家廟碑」「顔勤禮碑」「建中告身帖」などを臨書し、その書風の特徴を捉え、それから做書して下さい。

かな規定 初段以上 【四月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判(料紙可)

石井明子選書



よみ方 四方より花ふ(布)きいれ(礼)て(三)鳩の海 は(八)せを(越)句を

創作

習い方解説 (六)

石井明子

四方より花吹き入れて鳩の海

(松尾芭蕉)

過日、阜山記念館で琳派の書画、工芸の展覧会を見ました。茶道具が目的でしたが、本阿弥光悦書、俵屋宗達下絵の古今集和歌巻は好みを越えて足が止まりました。斬新で大胆なものは魅力的です。

偉大な美術品と自分が書くものを比べようというのではありませんが、内面にそういうものを抱いて制作することは心の支えになると思います。

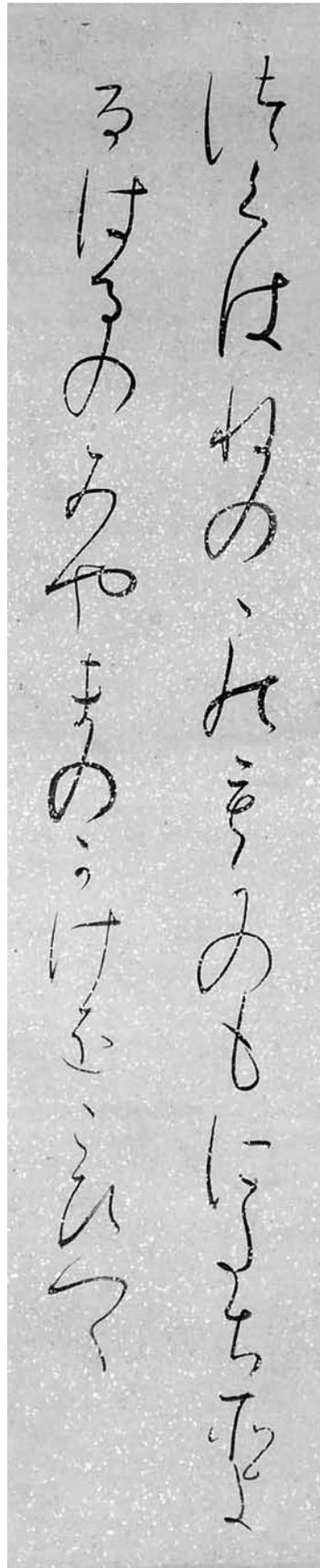
この句は以前から好きで、繰り返し作品にしてみました。鳩はカイツブリの古名です。鳩の海で琵琶湖のことです。

歴史的仮名遣いは厄介ですが、かなの学習にはついてまわるものです。四方はシハウ、鳩はニホというように古典の表記に注意して、かなに置きかえましょう。

かな規定 秀級以下 【四月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ1½ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全臨、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方 つ(徒)く(久)ばねのこの(能)も(毛)か(可)のものた(多)ちぞ(所)よるはるのみやまのか(可)げをこひつ

かな条幅規定 【四月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切 (料紙可)

庄司紅邨選書



よみ方 寒梅やうめ(免)の花とは(盤)見(み)つ(徒)れ(禮)と(登)も(母)

創作

習い方解説 (三)

庄司紅邨

寒梅や梅の花とは見つれども
(与謝蕪村)

梅の句を数多く残した蕪村ですが、何か心惹かれるものがあつたのでしよう。寒風の中に咲く梅の花それぞれの想いで表現して下さい。

1行目、大小の字の間隔を工夫しながら、2行目近寄りながら表情に変化をつけて下さい。

*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【四月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書



春眠不覺曉 處處聞啼鳥 夜來風雨聲 花落知多少 (孟浩然)
(春眠 曉を覚えず 処 処啼鳥を聞く 夜來風雨の聲 花落つること知る多少ぞ)

書体 自由

出品券
貼付位置

漢字条幅規定 秀級以下 【四月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

大野祥雲選書



萬里無片雲 (萬里片雲無し)

(禪林類聚)

書体 自由

習い方解説 (六)

半田藤扇

最終回は横形式です。

この度の横は、少し荒い山馬筆を使用しました。羊毛とは違った書風が生まれます。直線を利かし、文字を揺さぶって空間の処理を生かす方法を研究してみましょう。筆圧のかけ方で、躍動感を感じ、バランスよく配置されると一段と格調高い作が創れると思います。今後ともご一緒に勉強しましょう。

※よこ形式に限る

習い方解説 (六)

大野祥雲

萬里は心。片雲は心におこる雑念や妄想。心中にいささかの雑念もないこと。

萬の始筆はそっと筆をおき、4画目から勢いよく連筆、概形は四角で大きくなった。次の里は各所に白を含む長方形。無は分厚い線、サラッとした線、長く伸びやかな横画で構成。片雲は簡潔な線でバラバラにならないように心掛けた。

貫名松翁

唐岩碧水

平安時代の三筆、三蹟の書を近代書道へ橋わたしたのは、江戸時代末期の三筆（巻菱湖、市川米庵、貫名松翁）といわれています。中でも松翁は、和漢の古典を広く学び、「近代の弘法」と称賛されています。

碧水書

松翁は70才から京都に居を定め、以後亡くなるまで学芸の探求に努め、松翁独自の書芸術が円熟したのもこの頃です。「左繡叙稿」「松居遊見叟碑文稿」「私擬治河議」などいくつかの傑作を遺しています。

全体の調和を考え書かれるように。

※落款を必ず入れる。

(自分の名前を入れること)

用紙はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体は自由

ホー！作品
各部総評

NO. 645

漢字部 師範 磯貝 清耀

軽妙な運筆のリズムが潤渾の変化を生み、爽やかな行草作となった。墨量もう少しあればなおよい。

◎漢字部総評 上下級共、文字の点画の組み合わせによりバランスがとりにくい時など太細・大小の変化でまとめた。 (大雲評)



かな条幅部 準師範 今井貴代子

少々墨量が多かったが、確実に理解しての丁寧な姿勢が好感を持つ。さらにリズムの追求をした。

◎かな条幅部総評 雪が雲に、また変体がなの布、遅、牟に多くの誤字があった。字典を活用し、字母の把握をしっかりと。 (洋子評)



前衛書部 特選 巨 雅子

淡墨作ではあるが濃度の変化で線に立体感をもたせている。余白の空間と相俟って躍動感がある。

◎前衛書部総評 作品の創意工夫が着実に実を結んできているように見えた。 (蓮紅評)



漢字条幅部 師範 岩井 颯雪

「平復帖」などを想起させる作品。濃墨を選んだのも作者の意図だろう。古典の香のする逸品。

現代詩文書部 特選 齋藤 杏邑

淡墨で骨力ある直線での構成が見事で、字形の平素の鍛練の足跡が覗える快作。

◎現代詩文書部総評 練度の高い作多く敬服。類似作、署名押印の相連作が見られ残念。 (無極評)



◎漢字条幅部総評 まず参考手本に学びその上で何か挑戦が加われば一人前である。級位作品「麗」の誤字が目立った。 (翠風評)

ペン字部 師範 佐藤 麻美

まず美しい余白に魅力を感じた。線質にも変化があり流麗。運腕大きいが嫌味が全くなく奥が深い。

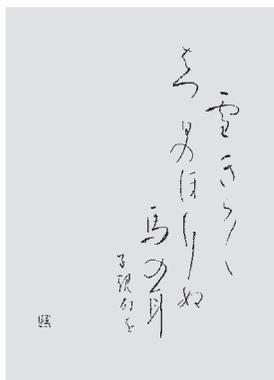
◎ペン字部総評 全体的に紙面構成がよく余白の明るい作品が多かった。線は筆記用具によっても左右されるので一考を。 (龍雲評)

江雪
千山鳥飛ふくと絶え
萬径人蹤滅す
孤舟蓑笠の翁
独り寒江の雪に釣る
麻美書

かな部 師範 北村 恵舟

墨色の美しい包容力を感じる作品です。向きになって制作しがちなことを反省する縁となりました。

◎かな部総評 秀作が多い半面、雑な書きぶりも多く残念。かなに曖昧な表現はないので、基本に戻り、美しく書くこと (明子評)



今月の

特別研究部優秀作品(特選)

臨書 (森地)

東平絹子

「自書告身帖」

夫行吏部尚書充禮儀使上柱
 國魯郡開國公顏真卿立德踐
 行當四科之首懿文碩學為百氏
 之宗忠謹罄于臣節貞規

絹子臨

東平絹子臨

172×53cm

◆顔法の筆意をよく体得され、忠実な臨書。建中帖のリズム感を生かし、自然な行の流れもあり妙。

(大雲評)

◆忠実に一字一字に取り組んだ姿勢を感じさせてくれる。波法の独特な表現もその結果。大きな成果を。

(倫子評)

◆一点一画をゆっくりと運筆し、深味のある線で着実に臨書した。真正面から古典に向う姿勢を賞讃。

(萬城評)

◆膨満な古典の線質をよく理解把握し、ゆったりと大らかな趣を表出。丁寧な臨書の姿勢は性格による？

(洋子評)

振衣清

音亭松

桂鳴鐘

層生對

大詠筆

雲浦流

幾言

江本興舟書

60×180cm

漢字

(大雲)

江本興舟

「清音亭」

◆筆づかいが軽快で線に冴えがある。余白が美しく明るい。横形式を巧みに構成し、現代性ある作品。

(萬城評)

◆静かな雰囲気の中に巧みな連綿を表現されている。結果、全体に一つのリズムが生まれ引きこまれる感あり。

(倫子評)

◆細線を利かせた風情のある異色作。自然なリズムで筆を運びせ、慈味深さに魅せられる。構成も巧み。

(洋子評)

◆暢達した線、太細の変化でリズムミカルな作。明るさを買う。ややくねった線が目立つ。冴えを望む。

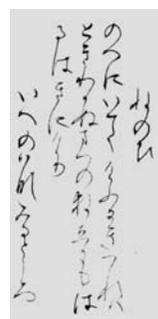
(大雲評)

臨書 (宗苑) 茂木絢水 「中務集」



60×180cm

部分拡大



◆膨大な量を、実に正確に原本を吸収して臨みました。特に渴筆を自分のリズムとして熟し圧巻です。

(洋子評)

◆拝見して敬服しました。墨つぎ濃淡と巧みな変化を上手に見分け、真面目な臨書態度に拍手を送ります。

(倫子評)

◆中務集の軽妙な筆法に習熟した見事な腕前です。技量の高さが窺えます。細部に至るまで着実な臨書。

(萬城評)

◆原帖の微細な動きと変化をよく取らえ、鋭い筆致で書きあげた力作。途中の乱れもなく通貫している。

(大雲評)

茂木絢水臨

前衛書

(蓮紅) 大友紅蓉

「笑顔」



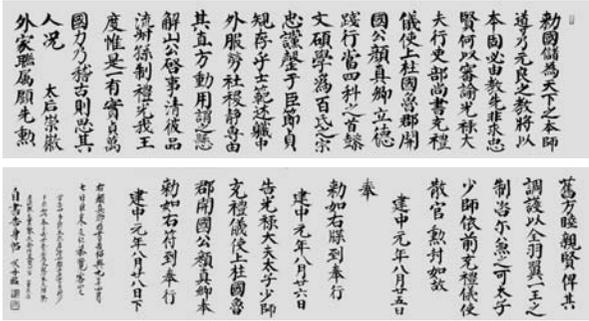
179×60cm

大友紅蓉書

臨書

(千葉)

小林咲舟 「自書告身帖」



71×135cm

小林咲舟臨

◆線の呼吸と筆毛とが一体になった表現。動きが大きく、呼びかけてくるような雰囲気がある。 (倫子評)

◆特に上部の、明るく大様な動きが新鮮。黒と白の配分にセンスが窺え、直曲のバランスもよく整う。 (洋子評)

◆上部と下部の対比が良い。線が冴え勢いがあり、生き生きとしている。余白が美しく明るく見える。 (萬城評)

◆厚手の二層紙に濃墨で大胆に表現。燻し銀のような筆触が沈潜した深味を感じさせて妙。落款位置一考を。 (大雲評)

現代詩文書

(加美)

小川祥燕



70×136cm

小川祥燕書

「真民の詩」

◆潤渾の変化でリズムを醸し、余白を生かした構成も自然でよい。運筆がやや速すぎて軽薄な感あり。 (大雲評)

◆呼吸をしているような構成、ここぞという所で墨の多さを上手に表現され歌にリズムを与えてる。 (倫子評)

◆一字一字の形に独特の表情があり、流暢でないリズムに惹かれる。潤渾の変化も効果的で濁線が良い。 (萬城評)

◆親しみやすい詩の内容を、語りかけるように綴る。墨量を抑えて過剰なデフォルメもないが高踏的。 (洋子評)

創作の部(49点)
漢字—7点
かな—4点
現代—23点
篆刻—1点
前衛—14点
臨書の部(37点)
漢字—32点
かな—5点
総出品点数 86点

- 〈特選候補者〉
- 〔創作の部〕
- 〔漢字〕 八街 三浦 鄭街 もく 西川 藤家 「かな」 志引 鈴木 朝夫
 - 〔現代詩〕 翠苑 梅田 紅雨 大雲 松永 香秋 玄耀 佐々木 青霞 大雲 長島 僊雨
 - 〔篆刻〕 墨宣 西川 翠嵐
 - 〔前衛〕 秀恵 阿部 雅悠 大拙 大庭 幸石
 - 〔臨書の部〕
 - 〔漢字〕 英峰 渡邊 多佳 陽陽 岩崎 陽光 千葉 竹浪 叙舟 「かな」 高崎 小峰美加子

漢字研究部
(自書告身帖)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



千葉紅雲

漢字研究部 特選 千葉 紅雲

顔真卿の楷書は向勢でゆったりとした広がりがあり、力強さと穏やかさとを兼ね備えています。正にこの作品はその特徴を良くとらえていて、ゆっくりと運ばれた筆線からは、昔の中国人の営みにも似た落着きを感じます。

◎漢字研究部総評

今回は立派な作品が多数寄せられ、選外の作品にも評価に値する作がありましたが入

選の枠があり残念に思いました。ただ、麗

(はね)の用筆が撥ねる前に筆を紙からはなし形を作っただけの作も少なからずありました。画の中心に向かって徐々に筆圧を加え、撥ねる手前で軽く筆をつりあげ、筆を挫くようにして撥ねると良いでしょう。また、忠字の「心」部を大きく湾曲させた作も目につきました。また、鋒先は殆んど水平に近く運ばれています。



静悦真和 翠峰子理敬



佳奎春白陽芝 子山景苑光香



幸叙美眞楊久 孝雲和理風子

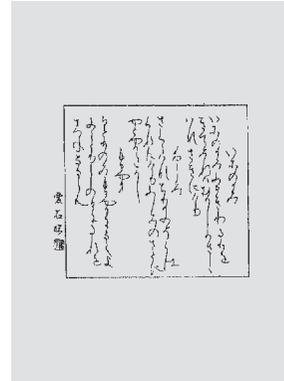


眞純眞子美子順一 蘭雲一子子純

かな研究部
(中務集)

選評 庄司紅邨

今月のホープ作品



松丸愛石

個性的な中務集の筆致をよく捉え、筆者の気持ちで見事に表現しています。簡略化された中にも、趣のある連綿・墨量の変化・リズム等堅実に特徴を理解しました。

◎かな研究部総評

一見自由・奔放に書かれているように見えるが、流暢な筆致の中に、鋭く強い線を見い出して欲しいです。自己流にならない様に、原本を模倣することが大事です。

かな研究部 特選 松丸 愛石



琴令楠
舟子麗

佳綾恵
代子美美

香美泰
舟艸子

春益彩
華江香

かな研究部成績表

大有大	大秋大	大玉大	高松大	秀	やま	春春	葱春	松村	書泉	竹島	治田	やま	大誠	上澄	福山	樹原	蒼陽	如隔	五春	玉葉	石松	
磯石	貝川	磯石	磯石	磯石	磯石	磯石	磯石	磯石	磯石	磯石	磯石	磯石	磯石	磯石	磯石	磯石	磯石	磯石	磯石	磯石	磯石	磯石

大千遊	阪葉雲	昌苑	五葉	調布	墨宣	京珠	前橋	長月	上泉	大向	東向	青向	上向	大向	春向	竹向	誠向	澄向	八向	松向	た向	正向	上向	大向	翠向	高向	附向	蘭向	龍向	上向	高向	東向	岩向	正向	水向	槽向	
池飯安	田田部	秋光	明隆	翠陸	真陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸